

モデル校用

「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

(モデル校名 山口県 菊川町立菊川中学校)

○ 学校の概要 (平成15年4月現在)

菊川町立菊川中学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3				2	11	22
生徒数	73	82	100				3	258	

1 本年度当初の「総合的な学習の時間」の課題

- (1) 各学年の内容が固定的になっておらず、一貫性が見られない。
各単元とつきたい力との関係及び授業時数等を考慮した年間計画の見直しが必要である。
- (2) 内容についての小・中の連携がうまく取れておらず、小学校で実施したことの繰り返しになったり、レベルが低下したりする。内容についてのつながりを考えた連携が必要である。
- (3) 課題を設定するとき、生徒の興味や関心をどう生かすか。
 - ・講座制をとった場合、生徒の興味・関心が生かしきれない。
 - ・個人テーマ制が理想であるが、生徒の興味・関心を第一に考えると、教員が対応できないことがある。その場合に支援をうまく行うための工夫や、校内体制の確立が必要である。

2 モデル地域の研究主題に対する本校の対応・目標設定

モデル校用 研究主題	<p>「菊川に学び、心豊かに生きる児童・生徒の育成」</p> <p>①地域の教育力の活用 → ②「心豊かな生活を創造する生徒」(本校研修主題)</p> <p style="text-align: center;"> </p> <p style="text-align: center;">「生きる力」のある生徒 ← 「生き方を見つける」総合的な学習の時間</p> <p style="text-align: center;">~小・中・高の望ましい連携のあり方を求めて~</p> <p>③異校種間の交流・連携の工夫(つきたい力・人・内容など)</p>
目標設定	<p>① H15年度の年間計画の中で、地域の教育力(人材・施設・素材)をできる限り活用しながら、カリキュラムの改善を図る。</p> <p>② 生徒の「生きる力」を育むために、総合的な学習の時間を通して、自らの「問題解決力」と生き方への振り返りを含めた「学び方」を育てていく必要がある。また、「生きる力」を育むために、まず「生き方を見つける」ことを目指した学習プログラムの更なる工夫改善を図る。</p> <p>③ 小・中・高の総合的な学習の時間を通してつきたい力を共有し、その連続的成長を意識した指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の年間計画の中で、異校種間の連携を図ることのできる内容を意識し、可能な限り、実践を行う。

3 平成15年度の本校の取組内容及び成果と課題

- (1) 地域の教育力の活用について
 - ・地域の人々との交流の中で、多くのことを学ばせることができた。本年度の取組みの上に立ち、更に有効な活用方法の具体的工夫が必要である。

《交流先》

菊川町社会福祉協議会、菊川町ふれあい会館、菊川町役場、特別養護老人ホーム、野の花工房道の駅、100円市、保育園、菊川町図書館、児童センター、郵便局、福祉バスターミナル寺院、消防署、町内各種事業所(職場体験では5.2事業所)等

《交流方法》

講師として招聘、電話インタビュー、訪問インタビュー、見学、職場体験学習等

- (2) 「生き方を見つける」学習プログラムの工夫改善について
- ア 「つきたい力」と「単元プログラム」を結ぶ「ブリッジ」…本校での原案を作成
 - ・来年度、実践の中で訂正を加える。
 - イ 単元プログラム…本校での形式を検討し、モデル案を決定
 - ・来年度、単元を実施するごとに各学年で作成していく。その作業の中で、「その単元でつきたい力」を再度明確にしつつ、カリキュラム自体の工夫改善を行う。
 - ウ 年間計画の見直し・検討→来年度の全体計画の作成
 - ・本年度の反省の下、「学びの連続性」も考慮して年間計画の見直しを行った。
 - ・来年度、実践の中で訂正を加える。
 - エ 生徒の支援をうまく行っていくための校内の組織と推進体制の確立を図る。
- (3) 異校種間の交流・連携の工夫
- ア 菊川町で共有する「つきたい力」の統一、学びの連続性の確認
 - イ 授業公開
 - ウ 児童・生徒の直接交流

- ・中3…総合的な学習の成果を小学生に発表
 - ・中2…職場体験学習で小学校・高等学校を訪問、体験学習をさせていただく
 - ・中1…「総合的な学習の時間」発表会(ポスターセッション)に小学6年生が参加
その後、小学生から「中学校の生活について」のインタビューを受ける

 - ・来年度は、更に有効な交流を模索していく。そのためには、児童生徒の移動手段の確保が必要である。
 - エ 実践者同士の生の交流方法の工夫(小学校・高等学校との連携の工夫)
 - ・本年度は、実践者同士の交流が「授業公開時」・「児童生徒の直接交流時」にしかできなかった。
 - ・異校種間で「総合的な学習の時間」の実践者同士が生の声を聞き合い、情報交換をする場を設定するなど、交流・連携の具体的な工夫が必要である。

4 平成16年度の取組予定

(1) 年間計画の見直しについて

- ① 行事との関連を見直し、目標・つきたい力等を吟味した上で、総合的な学習の時間のカリキュラムとして成り立ちにくいものは、割愛する。
- ② 1年「総合基礎講座」は、「学び方学習」であるが、今までのような単発の講座開設をやめて、問題解決学習を中心に据える。その中で、必要な「学び方」に関わる基礎的事項については、共通学習の時間を設ける。また、技術科・国語科とのクロスカリキュラムも取り入れる。テーマは、2年で行っていた「もっと知ろう菊川町」を移動させる。
- ③ 2年では、最初からチャレンジ職場体験に向けた学習をしっかり行う。学習課題の設定等、工夫改善を図りながら、学びの充実したカリキュラムを模索する。
- ④ 3年の卒業研究は、6月から行う。(そうすると、夏休みを利用して情報収集等にあたらせることができる。)個人テーマ制にするか講座選択制にするかは、両方の長所短所をしっかりと吟味した上で、これから決定していく。

(2) 平成16年度の取組予定

「平成15年度の取組内容と成果・今後の課題」参照

(3) 全体計画作成の視点

- ① 「総合的な学習の時間」全体を通して流れる理念・テーマ・目標を明確にする。
- ② 「総合的な学習の時間」でつきたい力を明確にする。
- ③ 教科で身についた力との関連を図る。
- ④ 中学校3年間を見通すとともに、小学校・高等学校との学びの連続性も考慮したカリキュラムを工夫する。
- ⑤ 評価の工夫改善を図る。

16年度「総合的な学習の時間」全体計画

菊川町立菊川中学校

1 目標

- 「ふるさと菊川」を土台として、異校種と連携し、地域の教育力を活用することにより、
- 体験的な学習や問題解決学習を通して、自らの「問題解決力」と生き方への振り返りを含めた「学び方」を育てる。
 - 課題解決の過程において、人とのふれ合いを通して生き方にふれ、自己の生き方を見つめ、見つけていくことで、「生きる力」を育む。

2 特徴

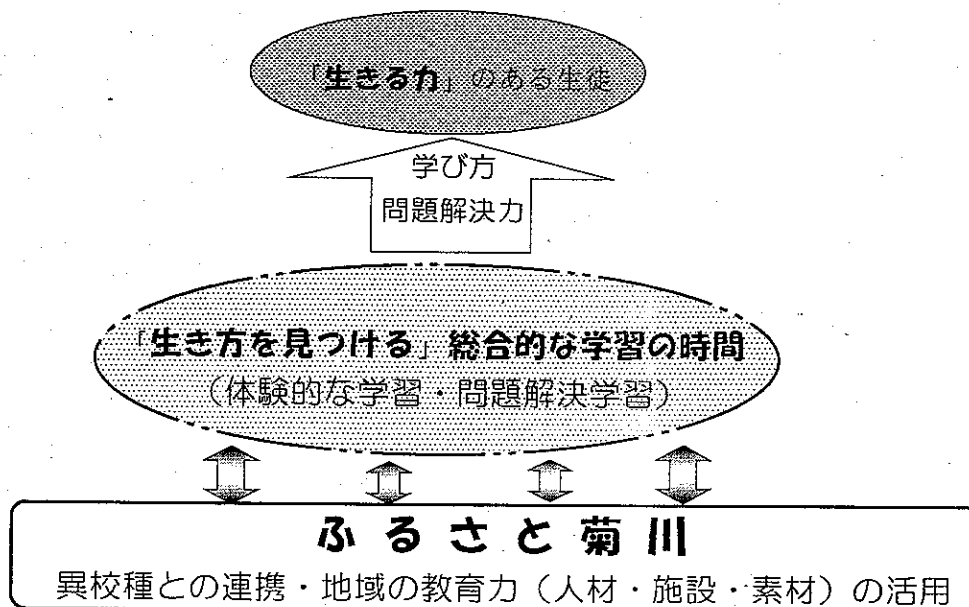
本校の「総合的な学習の時間」は

★「生きる力」を育むために、まず「生き方を見つける」学習★

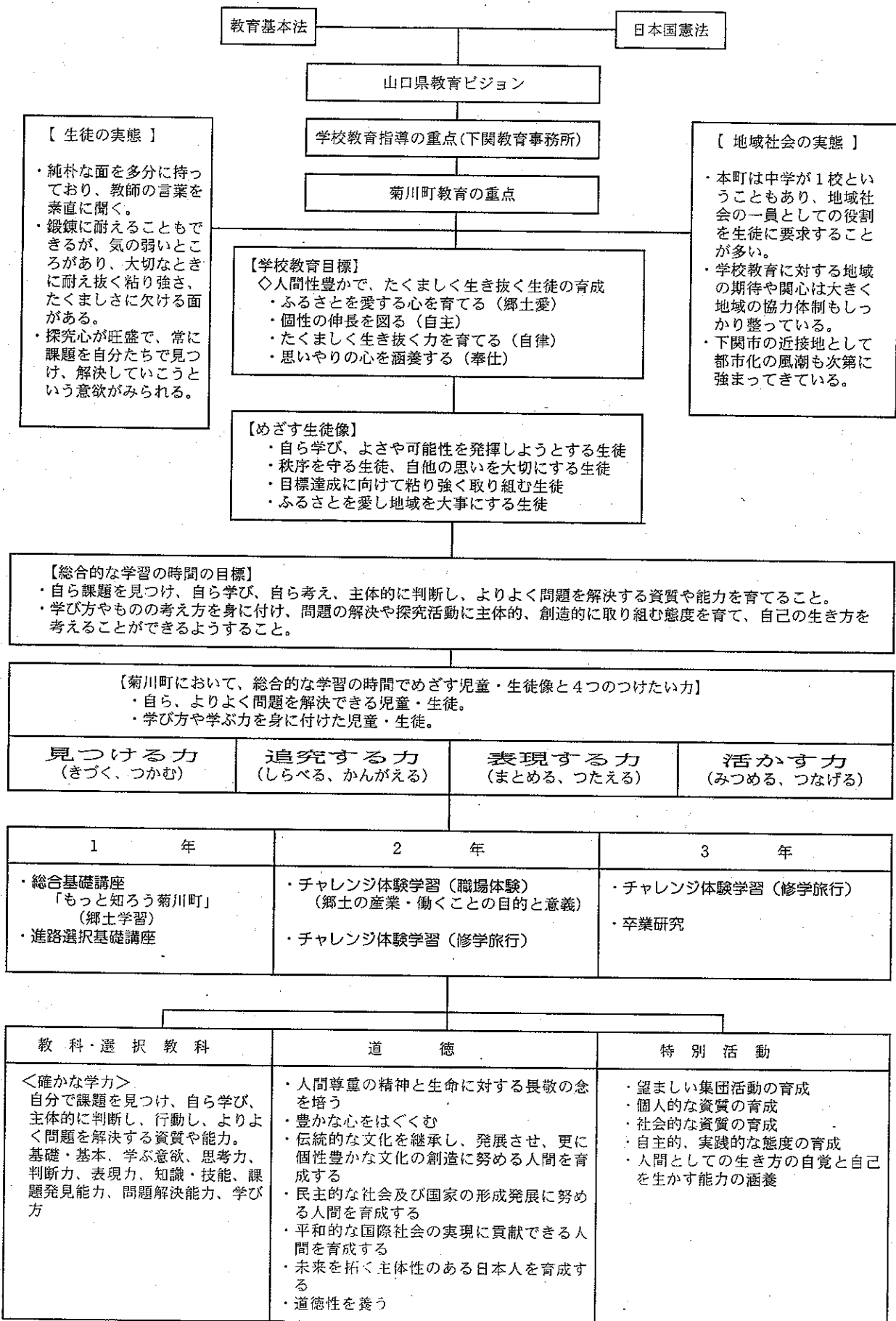
1年 自己を探る基礎を学ぶ	2年 自己を啓発する	3年 自己実現を図る
------------------	---------------	---------------

そのために

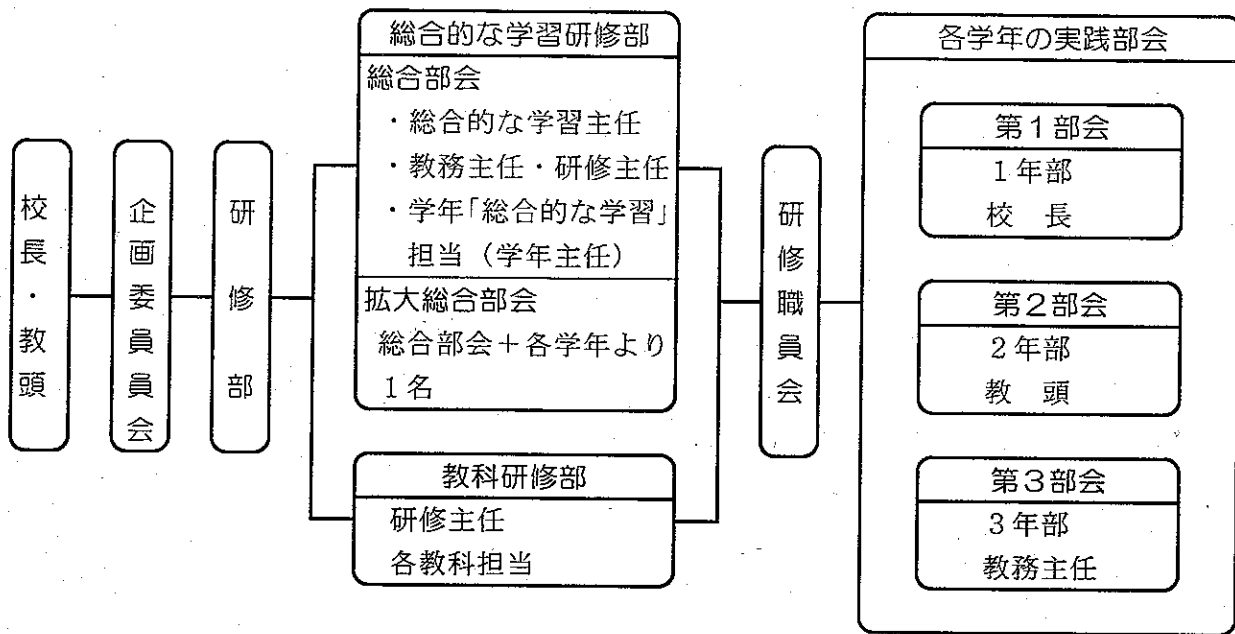
- ☆ 体験的な学習・問題解決学習を重視する。
- ☆ 人との出会いの場を設定し、人との関わりの中で学ぶことを大切にする。
- ☆ 地域との関わりを大切にする。
- ☆ 小学校や高等学校との「育ちと学びの連続性」を重視する。
- ☆ 教科・道徳・特別活動で身につけた力との関連を大切にする。
- ☆ 生徒自らが自分を見つめ直していくための方法として、ポートフォリオ評価を取り入れる。



3 総合的な学習の時間 構想図



4 校内の組織と指導体制

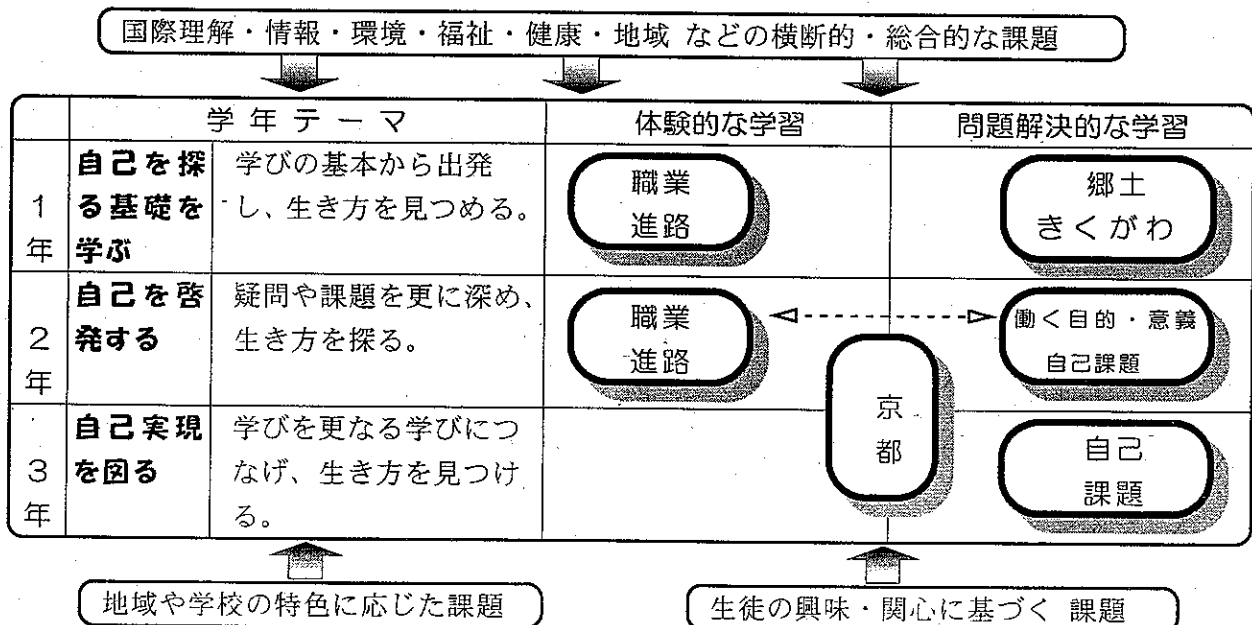


☆ 総合部会 ☆ …… 「総合的な学習の時間」の年間計画の見直し・カリキュラムの改善等の立案を行う。

☆ 拡大総合部会 ☆ …… 総合部会の立案を受けて、年間計画を具体的に見直し、カリキュラムの改善案を決定し、研修職員会に提案する。

☆ 各学年の実践部会 ☆ …… 単元プログラムを作成する。
各学年での「総合的な学習の時間」を実際に担当する。

5 学年テーマ



6 内容の構成

本校では、学年テーマをもとに、目標と内容・評価の視点・各教科との関連などを検討しながら、単元カリキュラムの開発を行っている。各単元の目標と内容は次のようになっている。

(これを具体的に示したものが「単元プログラム」である。(P 8 参照))

学年	単元	目 標	内 容
1 年	自己を探る基礎を学ぶ 総合基礎講座 「もっと知ろう 菊川町」	<ul style="list-style-type: none"> 自己学習力の基礎となる「学ぶ」方法を学び、「探究的な態度」を育む。 問題解決の過程において、人とのふれ合いを通して生き方にふれ、自己の生き方を見つめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己課題に沿って問題解決学習を行い、その中で学習課題決定・情報収集・情報整理・発表等の基本的な方法を学ぶ。 ふるさと菊川町の人とかかわり、ふるさとを再発見する。
	進路選択基礎講座	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな職業について調べ、また、実際に働いておられる方々の話を直接聞くことにより、現在の自分を振り返り、自己の生き方を見つめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己課題に沿って職業調べを行い、まとめて発表する。 職業講話を聞き、現在の自分を振り返り、将来の進路を考える。
2 年	自己を啓発する チャレンジ体験学習 (職場体験)	<ul style="list-style-type: none"> 職業の世界や望ましい職業観・勤労観について理解を深めることにより、自己の生き方を探らせる。 体験を通して、地域の職業の現状を理解し、地域が抱えている問題について自分の考えをもたせる。 人とのふれあいを通して、働くことの意義や目的を考え、自己の生き方を探らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産業を調べ、まとめる。 働くことの目的と意義について話し合う中で、自己課題を決定する。 職場を訪問し、仕事や施設・設備見学し、実際に働く体験をする。 体験を通して学んだこと・考えたことをまとめて発表する。
	自己実現を図る チャレンジ体験学習 (修学旅行) 「小日本から 古都へ」	<ul style="list-style-type: none"> 教科等で学習した知識や技能を活かして、意欲的に探求を行う態度を育てる。 問題を解決したり、課題を追究したりする方法を習得させる。 人との出会いやふれあいを通して自己の生き方を探らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「京都」の歴史・文化・自然・伝統などを素材にして、個人テーマに沿った問題解決学習を行い、まとめて発表する。 人との出会いやふれあいを通してコミュニケーション力を高める。
3 年	卒業研究	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学習してきたことを活かし、価値ある課題を設定させる。 問題を解決したり、課題を追究したりする中で、学び方をいっそう深めさせる。 問題解決の過程で学んだことを自己の生き方に活かし、自己の生き方を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの学習や自分の趣味・特技・関心事などを振り返って課題を決定し、問題解決学習を行う。 課題に沿って調べ学習・創作活動・体験学習を行い、発表する。

7 単元の配列

		1 年 自己を探る基礎を学ぶ	2 年 自己を啓発する	3 年 自己実現を図る
一 学 期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合基礎講座 「もっと知ろう菊川」 (郷土学習) ・課題設定 ・基本的な学習方法について <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> コンピュータ 図書の検索・活用 手紙の書き方・電話のかけ方 情報収集・まとめ方 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● チャレンジ体験学習 (職場体験) ・地域の産業調べ ・講義(教師) ・働くことの目的と意義 ・課題決定 ・情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジ体験学習 (修学旅行) 「小日本から古都へ」② ・修学旅行自主研修計画作成 ・職業、産業、歴史、環境などを課題とした調査・見学 ・体験活動 ・まとめ発表 計 23 時間
	5月			
	6月			
	7月			
夏休み		<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの目的と意義を考える (登校日) 	<ul style="list-style-type: none"> ※● 職業の世界を知る (登校日) 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 卒業生のお話を聞く会 (登校日) 体験入学への参加
二 学 期	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・まとめ ・発表会 (ポスターセッション) <p style="text-align: right;">計 45 時間</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 3日間18時間の 体験活動 (職場体験学習) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ・発表会 <p style="text-align: right;">計 48 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・まとめ ・発表会 <p style="text-align: right;">計 47 時間</p>
	10月			
	11月			
	12月			
三 学 期	1月	<ul style="list-style-type: none"> ● ※進路選択基礎講座 ・講義(教師) ・職業調べ ・発表会 ※職業講話(保護者) ・まとめ ・発表会 <p style="text-align: right;">計 25 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● チャレンジ体験学習 (修学旅行) 「小日本から古都へ」① 修学旅行事前学習 職業、産業、歴史、環境などを課題とした調査 課題設定 <p style="text-align: right;">計 22 時間</p>	
	2月			
	3月			
合 計		70時間	70時間	70時間
体験的な学習		25 時間	48 (22) 時間	23 時間
問題解決的な学習		45 (25) 時間	22 時間	47 時間

●印は「菊川町に学ぶ」に関連

※印は外部講師を呼んでの講演

8 菊川町の「総合的な学習の時間」で共有するつきたい力

菊川町では、「自ら、よりよく問題を解決できる児童・生徒」「学び方や学ぶ力が身に付けた児童・生徒」の育成を目指して、児童・生徒につけたい4つの力を次の表のようにまとめた。児童・生徒の年齢は違っても、各校がそれぞれにこの4つの力を育てるための手だてを繰り返してこそ、それぞれの力が育ち伸びていくと考えられる。

観 点	小 学 校			中 学 校			高 等 学 校
	中 学 年	高 学 年	1 年	2 年	3 年	年	
A 見つける力 きづく つかむ	○自然や身の回りの生活に興味・関心・疑問をもち、追究したい課題を見つけていることができる。	○自然や身の回りの生活や社会に興味・関心・疑問をもち、追究したい課題を決めることができる。	○身の回りの事象に興味をもち、課題を自らのことととして的確にとらえることができる。	○身の回りの事象をいろいろな角度から見つめ直し、価値ある課題を自ら選択することができる。	○身の回りの事象をいろいろな角度から見つめ直し、価値ある課題を自ら設定することができる。	○身の回りにおける問題点に気づき、自らのこととしてとらえて課題を設定することができる。	
B 追究する力 しらべる かんがえる	○様々な方法で情報を集め、情報や体験を関連付けながら自分なりの考えをもつことができる。	○課題解決に向けて見直しをもち、適切な情報や体験を関連付けながら、自分なりの考え方を結果を導き出すことができる。	○追究の視点を明確にし、見直しをもつて情報を収集・選択することができる。	○課題解決に向けて主体的に活動し、必要な情報を収集・選択することができる。	○課題解決に向けて主体的に活動し、適切な情報を収集・選択することができる。	○問題点の現状について、収集した情報を正しく把握し、主体的に課題を探究することができる。	
C 表現する力 まとめる つたえる	○調べたことを分かりやすくまとめ、いろいろな方法で伝えることができる。	○調べたことをお互いに情報交換しながら分かりやすくまとめ、効果的な方法で伝えることができる。	○調べて明らかになったことなどをまとめ、適切な方法を選択して表現し、発信することができる。	○課題解決の結果について、自らの個性を生かして適切に表現し、効果的に発信することができる。	○課題解決の結果について、自らの個性を生かして適切に表現し、創意工夫をしながら効果的に発信することができる。	○解決方法を研究成果としてまとめ、その成果をよりよい社会の構築に向けて効果的に情報発信することができる。	
D 活かす力 みつめる つなげる	○活動を振り返って、自己の成長やよさに気づき、次の学習や生活に生かすことができる。	○活動を振り返って、自己の成長やよさを自覚し、次の学習や生活に生かすことができる。	○活動を振り返って自らの学び直し、学んだことをその後の学習や生活に活かすことができる。	○活動を振り返って自らの学び直し、学んだことをその後の学習や生活に活かすことができる。	○活動を振り返って自らの学び直し、学んだことをその後の学習や生活に活かすことができる。	○研究過程を通して自らを見つめ直すとともに、身に付けた力をその後の学習、生活全般に活かし、将来に役立てることができる。	

菊川町

9 「つきたい力」と「単元プログラム」を結びブリッジ

生徒に「つきたい力」を明確にしなが、「総合的な学習の時間」を計画を立てていくために、本校では各単元ごとに単元プログラムを作成している。その際、「つきたい力」と「単元プログラム」の間において、橋渡しになるものが必要であると考えた。これを「ブリッジ」と呼ぶ。

菊川町立菊川中学校

学年	1 年	2 年	3 年
観点			
A 見つける力 きづく つかむ	①身の回りの様々な事象に興味をもつ。 ②課題に自分なりの意味づけをする。	①身の回りの様々な事象をいろいろな角度から見つめ直す。 ②広い視野に立って自分なりに考え、価値ある課題を選択する。	①身の回りの様々な事象をいろいろな角度から見つめ直す。 ②広い視野に立って焦点化・具体化した課題を設定する。
B 追究する力 しらべる かんがえる	①見通しをもって課題解決の計画を立てる。 ②課題解決のために興味・関心をもって主体的に取り組む。 ③教科で学習したことを活かし、工夫しながら発展的に取り組む。 ④追究の視点を明確にし、調べる方法を適切に選択する。 ⑤見通しをもって情報を収集し、取捨選択する。 ⑥得られた情報をもとに論理的に考察し、自分なりの考えをもつ。 ⑦相手の立場や気持ちを考えながら人とかわる。	①見通しをもって課題解決の計画を立てる。 ②課題解決のために興味・関心をもって主体的に取り組む。 ③教科で学習したことを活かし、工夫しながら発展的に取り組む。 ④追究の視点を明確にし、調べる方法を適切に選択する。 ⑤見通しをもって必要な情報を収集し、取捨選択する。 ⑥得られた情報をもとに論理的に考察し、自分なりの提言を導き出す。 ⑦相手の立場や気持ちを考えながら人とかわる。	①見通しをもって課題解決の計画を立てる。 ②課題解決のために興味・関心をもって主体的に取り組む。 ③教科で学習したことを活かし、工夫しながら発展的に取り組む。 ④追究の視点を明確にし、調べる方法を適切に選択する。 ⑤見通しをもってより適切な情報を収集し、取捨選択する。 ⑥得られた情報をもとに論理的に考察し、自分なりの提言を導き出す。 ⑦相手の立場や気持ちを考えながら人とかわる。
C 表現する力 まとめる つたえる	①調べて明らかになったことや、振り返って意味づけたことなどを的確にまとめる。 ②目的に沿って、適切な方法で表現する。 ③相手を意識し、わかりやすく発信する。 ④周囲の人と協力して学び合う。	①調べて明らかになったことや、振り返って意味づけたことなどを的確にまとめる。 ②目的に沿って、個性を生かして適切な方法で表現する。 ③相手を意識した態度で、効果的に発信する。 ④周囲の人と協力して学び合う。	①調べて明らかになったことや、振り返って意味づけたことなどを的確にまとめる。 ②目的に沿って、個性を生かして適切な方法で表現する。 ③相手を意識した態度で、創意工夫しながら効果的に発信する。 ④周囲の人と協力して学び合う。
D 活かす力 みつめる つなげる	①活動を振り返って自分の取り組みのよさや改善点に気づき、自らを見つめ直す。 ②学習の中で身につけた力を、その後の学習や生活の中で適切に活用する。 ③学んだことをもとに新たな課題を見つけ、解決しようとする意欲をもつ。	①活動を振り返って自分の取り組みのよさや改善点に気づき、自らを見つめ直す。 ②学習の中で身につけた力を、その後の学習や生活の中で適切に活用する。 ③学んだことをもとに新たな課題を見つけ、解決しようとする意欲をもつ。	①活動を振り返って自分の取り組みのよさや改善点に気づき、自らを見つめ直す。 ②学習の中で身につけた力を、その後の学習や生活の中で適切に活用する。 ③学んだことをもとに新たな課題を見つけ、解決しようとする意欲をもつ。

10 単元プログラム

「総合基礎講座 もっと知ろう菊川町」（45時間）

単元 の目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己学習力の基礎となる「学ぶ」方法を学び、「探究的な態度」を育む。 問題解決の過程において、人とのふれ合いを通して生き方にふれ、自己の生き方を見つめさせる。
-----------	---

過程	主な学習活動	時間	評価の視点	留意事項・教師の支援	教科学習とのつながり
見 つ け る	① 「菊川町」に関する基礎知識を確認する ② 課題の作り方 ・個人課題の決定	6h	・「菊川町」に興味をもち、適切な課題を設定することができる。 A-① ②	・ウエビングにより、課題になりそうな「素材」を集めた表を作り、その中から自分の興味のあるテーマを絞っていかせる。	・地域の自然や社会の事象への関心・意欲・態度（理科・社会）
	学習計画をたてる ・課題追究の班編成	2h	・課題解決のために何をどう調べていきたいか、追究の視点を明確にして、調べる方法を選択し、見直しをもって課題解決の計画を立てることができる。 B-① ④ ⑦	・課題追究のため、課題の似たもの同士でグループを作らせ、課題解決の見通しを立てさせる。 ・「菊川町史」、各種パンフレット、インターネット、見学、現地取材、電話でのインタビューなど、調べる方法は様々であることを確認する。	
追 究 す る	情報収集 ・インタビュー ・見学 ・本 ・インターネット	18h	・友達と協力しながら、課題解決のために興味・関心をもって主体的に取り組み、文献・インターネット・資料・インタビュー等から必要な情報を集めることができる。 B-② ③ ⑤ ・インタビューを通して地域の人々と進んで交流し、地域の人々の菊川町に対する思いを受け取ることができる。 B-② ⑦	・見学・現地取材・電話でのインタビューなどを自主的に計画させる。 ・「ポスターセッションでどんなふうに発表したいのか」という見通しを先にたてさせ、そのために必要な情報は何か、ということを考えて上で情報収集にあたらせる。 ・必ず「人とかかわる」活動を取り入れるようにさせる。	・コンピュータ・デジカメの基本操作、インターネットの使い方に関する基本的な力（技術科） ・インタビューの仕方、電話のかけ方等の「話す力」「聞く力」（国語） ・図書検索の力（国語） ・手紙（礼状）を書く力（国語）
	ポスターセッションの準備 ③ ポスターセッションについて ④ ポスターのまとめ方 ・ポスター等の作成	12h	・役割分担を明確にして、調べて明らかになったことや、振り返って意味づけたことなどを紙芝居やポスターなどに工夫してまとめることができる。 B-⑦ C-① ② ④	・ポスターにまとめる、図や表を用いる、紙芝居をつくる、クイズ形式にする、「もの」を用意するなど、発表の仕方の工夫例を示す。 ・1人1回は発表するように指示し、発表の順番を決めさせておく。	・情報を収集・整理し、正確に伝える能力（国語） ・造形的な表現力（美術科） ・自分の考えを論理的にまとめる能力（国語）
表 現 す る	発表内容の確認・発表練習	4h	・班の中でお互いの発表を聞き合いながら、発表内容や方法を更に工夫していくことができる。 C-③ ④	・アピールタイムでの発表者、アピール方法も確認させておく。	・話す力（国語）
	ポスターセッション	2h	・自分たちの調べたことを適切な方法で表現し、発信することができる。 C-③ ・「発表の場」を体験する中で、表現する喜びを感じるとともに、友達の発表もしっかり聞き、互いのよさを認め合うことができる。 C-④ D-①	・相互評価カードを用いてお互いの発表を評価し合う中で、互いのよさを認め合うようにさせる。	・話す力（国語） ・メモの取り方を含んだ「聞く力」（国語）
活 か す	反省・まとめをする	1h	・総合基礎講座全体の活動を振り返って自己評価をし、学んだことを今後の学習に活かしていこうとする意欲をもつことができる。 D-① ② ③	・自己評価カードを用いて学習全体を振り返る中で、次への課題を見つけさせ、もたせるようにさせる。	

①……共通学習

A-①など……「ブリッジ」の番号